

# いずみニュースレター

令和4年5月発行 第22号

## 「暮らす」ということが大事

松岡享子さんが遺してくれた絵本

社会福祉法人いずみ 理事 大塚恵美子

私は、市内にある「くめがわ電車図書館」で長く活動してきました。子育てをし、家族と暮らす傍らに常に地域の活動と絵本がありました。暮らすということは、財力や環境だけに影響を受ける訳ではないでしょう。支え合う他者を知ること、あらあら、と動かずにはいられないことを見つけてしまう毎日のことでもあります。

この1月に児童文学者の松岡享子さんが逝去され、4月に遺作となった絵本「えんどうまめばあさんとそらまめじいさんのいそがしい毎日」が刊行されました。物語の構想は松岡享子さん、いいまわしを考え、ばあさんとじいさんと動物たちの暮らしのようす、農村のようすをスロバキア在住の降矢ななさんが描かれています。

最初にめくったページには『「暮らす」ということが大事。いそがしく、たのしくね』とあり、それは松岡享子さんからのメッセージです。

日々、新たな発見に出会い、驚くことが好奇心です。「暮らす」とは、溢れんばかりの情報のどこを見るか、確かなものとして受けとるか、も自分のチカラを信じることから始まるように思います。利己的に都合のいいものだけをとる、ということとは違います。その種は、暮らし、日常の面白さと慈しみから生まれることがあるのです。

それは、自分とは何だろう、と振り返ったり向き合ったりすることから、生まれるチカラだったりするでしょう。

収束のみえないコロナ禍、侵略と戦争、相次ぐ気候変動や地震、自分で制御することが困難なことに囲まれている日々です。不安なことが続く毎日に、人を思い哀しみます。

それでも、私たちは今日も明日も生きていく。精一杯たのしく、そして忙しく。

孤立を深めず、支え合いながら、誰かとともにある世界を信じることができる日常は大事、暮らしは大事です。そう「えんどうまめばあさんとそらまめじいさん」のように、次々とまめまめしく忙しくなってしまうようにね。

だからこそ、それを理不尽に奪われてはならず、武力でしあわせや平和は得られないことを確信するでしょう。

物語をよむ、聞く、歌ってみる、さわってみる、映画を観る、食べたいものをこしらえる、食べる、散歩する、笑い合う。自分の思考を表現するものに出会えた時、自分が肯定できた時に、他者を知ることができるように思います。

生きることの核心にふれる、そんな一冊の贈り物が「えんどうまめばあさんとそらまめじいさんのいそがしい毎日」でした。

ご縁があって、いずみに集うみなさまも、電車図書館のみならず、近くの図書館で手に取って、ばあさんとじいさんの一日をながめてください。きっときっと、好きになりますよ。

令和4年度を迎え、成人部では新しい利用者様、職員が仲間となり、非常に活気のある毎日を送っています。

令和2年度から続くコロナ禍の影響で、昨年度も成人部では試行錯誤を繰り返しながら、利用者様に楽しんでいただけるよう努力してまいりました。その結果、コロナ禍だからこそその発想、例えば果物狩り疑似体験、他施設・他事業所とのリモート交流等、新たな行事を開催することが出来ました。

令和4年度もしばらくはコロナ禍の影響が予想されますが、常にチャレンジ精神を大切に、利用者様に楽しんでいただけるよう職員一丸となって取り組んでまいります。

日常の利用者様支援においては、①「利用者様の主体性を引き出す支援」②「利用者様の生活全般支援」を柱とし、事業計画を作成致しました。

①については、利用者様の能力を最大限発揮し、自発的に活動が出来るよう、コミュニケーション、姿勢変換等の支援に取り組んでまいります。

②については、利用者様・ご家族様の年齢による家庭生活の変化等を把握し、通所施設として生活全般を支えていくため、昨年度実施した居宅介護事業所と連携した研修による家庭訪問等に注力してまいります。

その他、ここ数年で医療的ケアを必要とする利用者様が増加し、重症心身障害者の通所施設としての役割を果たすべく、生活支援員等の非医療職の医療的ケアに対する知識の向上にも取り組んでまいります。

令和4年度も利用者様に選んでいただける事業所となれるよう、職員が一丸となって真摯に、誠実に利用者様支援と事業所運営に取り組んでまいります。

よろしくお願い致します。

(担当：亀井)

## 療育時間延長開始

### ひまわり(児童発達支援事業)

令和4年1月より、療育時間延長を導入しています。従来の10時～15時を基本とする療育時間から前後を延ばし、9時半～16時とさせていただきます。

療育時間を延ばす事で、保護者様のレスパイト、就労支援のご協力に少しでもつながればと考えています。また、療育時間が伸びる事で療育プログラムの幅も広がり、個々に取り組める機能訓練等も日々、充実して行えています。

今後もお家族やお子様のニーズに耳を傾けより良い療育、使いやすい事業所作りを行って参ります。

<写真：節分遊びの様子>



(担当：西島)

## 春の外出活動

### ひまわり（放課後デイサービス事業）

昨年度から始まりました土曜日・祝日開所を今年度も引き続き、月に1回程度開所します。内容に関しては、昨年も好評であったいちご狩り・ぶどう狩りなどは今年も開催予定です。土曜日・祝日開所や学校の長期休み期間では、感染対策を行いながら、イベントや外出も行っていきたいと思っております。

今後とも皆さまのご要望をお聞かせいただき、少しずつでも、お応えできるように、ひまわり職員一同、努力してまいります。

#### <春のお出掛け>

西武ライオンズの開幕戦のイベントでブルーインパルスがパフォーマンスをするということで、狭山湖までドライブに行きました。外に出て春の風を感じながら空を見上げて待っていると、音が近づいてきてあっという間に通り過ぎましたが迫力満点でした。



#### <お花見散歩>

施設の周辺も桜が満開でしたので、気候の良い時には皆さんで散歩に出掛けてお花見をしました。ライフサポートつばさに寄った際に幼児部の先生やつばさに異動したスマイルの職員などが出てきてくれて久しぶりに会うことができました。

中央公園では暖かな陽を浴びながら、桜をながめゆっくりと散歩を楽しみました。



（担当：廣瀬）



## 今年度の事業計画と抱負

ライフサポートつばさ

つばさマネージャーの増田です。法人いずみ、そしてつばさに入職し6年目を迎えました。つばさは平成22年に「生活介護事業」に移行してから12年、私もつばさと共に日々成長させていただいております。

さて、感染症禍での事業も3年目です。前年度のつばさ活動では感染症禍のため、宿泊行事は中止。施設祭りは利用者の方のみの参加で規模を縮小して行いましたが、一方では感染症対策を徹底することでバーベキュー外出や調理活動等ができました。感染症禍3年目の今年はいままでの経験を活かし、利用者の方に安心してご参加いただけるよう感染症対策を行いつつ、少人数での「外出」や「サークル」などで活動の幅を広げていきます。個々の状況に合わせた、利用者の方に寄り添った支援を続けていきます。

新年度のつばさも、どうぞよろしくお願いいたします。

(担当：増田)

## 幼児部のこれから

あゆみの家幼児部

昨年度から幼稚園や保育園との並行通園を再開しました。これは最近、保護者のニーズが変化してきている事によるものです。年々、幼稚園や保育園への移行希望が多くなってきており、幼児部はその橋渡しの位置付けや、準備・待機所的な機能が求められるようになってきました。そのため、大きな集団に入る前に、幼児部の小集団での経験を積み重ねていけるよう、魅力ある活動を工夫しながら提供していきたいと考えています。

もちろん移行を見据えた子どもばかりでなく、全ての子ども達が「あそび」を通して、人との関わりや周囲の環境に関わる力、社会性が育つよう、これまで通り支援していきます。そして保護者への支援、ご家族との連携も引き続き行っていきます。

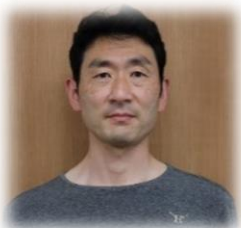
よく「アットホームな雰囲気」との声を頂きます。その雰囲気も大切にしながら、子どもそれぞれの持つ力を引き出し、子ども達と向き合っていきたいと考えています。



(担当：小野)

## 相談支援事業所トビラ

皆さまお元気ですらっしゃいますか。ビッグニュースです。新しい職員さんが入りました。ご存じの方はご存じ 村山 暁（むらやま あき）です。うれしいですね。今年度も引き続き、皆様がお住まいの地域で安心して暮らし続けることができる様、必要なサービスを受けることができる様、微力ではありますがお手伝いできればと思っています。村山は今年度、研修を受けて正式に相談支援専門員となる予定です。



『皆さんと一緒に、お話ししながらプランを立てられるようサポートします』

(担当：江崎)

令和4年度に注力すること  
～ホームヘルプひだまりとしてのBCP～

ホームヘルプひだまり

ホームヘルプひだまりは利用者一人一人が「いつも通りの在宅生活」を続けていけるように、今年度はBCP (Business Continuity Plan) に力を入れたいと考えます。

未だ猛威を振るっている新型コロナウイルスや、記憶にも新しい令和4年3月16日に発生した震度6の地震。他にも自分の事としては起きていないだけの災害の数々。

法人いずみでもBCPを策定し始めており、「災害想定ゲーム kizuki」を購入し災害に備えての準備を着々と進めています。

ホームヘルプひだまりでは今後、ご家庭と連携した防災訓練を行っていく予定です。在宅支援という利用者と介助者しかいない中で実際に起きうる災害にどこまで対応できるのだろうか？という難しさがあります。しかし「起きないだろう？」「起きたらどうしよう？」ではなく、「何が出来るのか？」「どこまでできるのか？」「何を考え準備をしておく必要があるのか」を中心に考え支援に活かしていきたいと思います。



(担当：会田)

永年勤続表彰

先日、法人いずみに長年にわたりご尽力いただいた職員の表彰を行いました。

勤続 15 年

中尾 多美子 看護師

勤続 10 年

清水 恵理子 生活支援員  
古木 暢子 居宅介護員

嘱託職員

植村 修  
整形外科医 勤続 11 年

上田 道子 音楽療法士 勤続 12 年  
佐野 玲子 音楽療法士 勤続 11 年  
武田 広行 音楽療法士 勤続 11 年



これからもよろしくお願いいたします。

## 職員ひとこと

今号より、各事業所の職員より「大切にしている事」を一言ご紹介します。



**あゆみの家成人部**  
**山田 裕基 3年目**

この4月よりあゆみの家成人部に異動となりました山田裕基と申します。ライフサポートつばさで2年ほど勤務後、今回の異動となりました。私が仕事で大切にしていることは、利用者様と出来る限り同じ目線でコミュニケーションを取る事です。座右の銘は「石の上にも三年」です。精一杯頑張っていきますので、どうぞよろしくお願いします。

初めまして。那俄性道生（ながせみちお）と申します。私は利用者様の、わずかな表情の変化を見逃さないようにすることを心がけて支援をしてきました。みなさんが楽しく活動出来るように頑張りますので、よろしくお願いします。



**あゆみの家成人部**  
**那俄性 道生 1年目**



**ひまわり(児童発達支援)**  
**西島 悠子 6年目**

日々の療育で大切にしている一つに「個々の特性を活かす」があります。

例えば集団で行う「朝の会」では登園する子供によって出し物を考えています。その日に参加する子供の好きな事、発達を促せる動き等を取り入れた内容（手遊び、絵本読み、楽器、光遊び等）を組み合わせ、計画しています。

子供達の小さな変化、成長を見逃さず、一つ一つの発見を大切に、子供も大人も共に楽しみ、喜びを分かちあえるひまわりであり続けたいと考えています。





**多機能型ひまわり  
放課後等デイサービス事業所  
廣瀬 富 9年目**

成人の方の生活支援を含め、いずみ他を合わせて通算で15年目になり、様々なことを経験、学びながら支援をしてきました。仕事を始めた時から変わらずに思っていることは、通所している時間の中で、「安心して落ち着ける場所であること」と「楽しんで過ごせる場所になるようにしていきたい」ということです。

昨年から放課後等デイサービスに異動してきました。これまでの成人の支援を行ってきたこととは異なることも多いですが、放課後等デイサービスの短い時間の中でも安心して楽しく過ごしてもらえそうな場所にできればと思っています。

こんにちは。今、目の前には飛沫拡散防止フィルムが張っており、フィルムのすみずみにはガムテープがベタベタ…目立った補修跡があります。この補修跡は、千葉管理者がずっとけた時のもの？ あっち側の補修跡は、利用者Kさんが運動レクで特大ホームランを打った時のもの？ どれも、一生懸命直してあります。

私が入職して最初にびっくりし、また現在でも驚かされ続けているのが、つばさの利用者さんたち（職員たちも）のユニークさ、そして多面性であります。誰にでも多面性というものはあって、あんなお顔やこんなお顔を持っているものなのでしょう。つばさとは、もともと個性的すぎるみなさんが集まって、さらにそれぞれが多面性を発揮しあえる、そういう素敵でなんでもアリな場所なのだと思います。

今日もみなさんと一緒に、今まで知らなかった一面を発見しあえますように。



**ライフサポートつばさ  
山下 毅 4年目**



**ライフサポートつばさ  
中尾 多美子 16年目**

ライフサポートつばさ看護師の中尾多美子と申します。利用者の皆様の日々の健康維持のお手伝いをさせて頂いております。皆様がお元気に、心も体も健やかに通所して頂けるように、ご家族の皆様のお思いとも真摯に向きあうことを心掛けています。

今後も益々、利用者の皆様の明るい笑顔と笑い声が溢れるつばさであるよう、努力して参ります。微力ではございますが、よろしくお願い申し上げます。



### あゆみの家幼児部

小野 ふさえ 4年目

「みんなちがって みんないい」という金子みすゞさんの詩が私の好きなことばです。子どもそれぞれ違いがあり、それぞれの良い所を持っています。

その良い所（長所、特技など）をたくさん見付ける、引き出す、そして伸ばしていくという事を大切に考えながら、子ども達と日々向き合っています。

前提として、子どもそれぞれの特性や配慮の仕方などを学び続けることも大切なので、なるべくあちこちにアンテナを広げるように心がけています。

これからも、かわいい子ども達がその子らしく歩んでいけるよう支援していきたいです。

私が仕事をする上で大切にしている事は「利用者さんとの会話です」

会話と言っても、利用者によっては言語で話される方、またはオリジナルのサインやアイコンタクトや表情で話す方、一言二言で話しをする方など会話のあり方は千差万別です。その一人一人の利用者さんと会話する時間は、私にとってかけがえのない時間であり、大切な思い出となっていきます。

これからも些細な事に気付いたり、笑い合ったり、利用者さんとのコミュニケーションを楽しんでいきたいです。



### ホームヘルプひだまり

齋藤 秀起 6年目



### 編集後記

今号から始まった、職員ひとことはいかがでしょう？ 活動場所や時間が違うので会ったことのない職員もいるのでは？ と、思い始めてみました。楽しんでいただけたらと思います。

（担当：会田）

※記事内の写真についてはご本人、ご家族のご了承を頂いたうえで掲載しています。